

(様式2-2)

## 令和6年度「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト」事業 成果報告書

1 指定校・指定校群 (まんのう町立長炭小学校)

### 2 実施の内容

#### (1) 魅力ある学校づくりプロジェクト

自分たちの未来は、自分たちで創る。 選択肢が自分にあることで、主体的になる。合言葉を「トライ&エラー」とし、様々な子どもたちの提案を現実のものとして実現していった。

- モンスターバッシュ挨拶運動
- ハッピーマンデープロジェクト
- 給食を減らさない壁チャレンジ



#### (2) 心の小さな SOS 早期発見プロジェクト

まず、相談窓口を複数設定し、相談しやすい大人を選んで相談できるようにした。また、相談したあとは、誰が情報を共有し、どうなっていくのか、丁寧に説明してからアンケートをとるようにした。

不登校傾向の児童には、その児童の学ぶ志向のタイプに応じて、8つの窓をノックするように動機付けを図った。



#### (3) いじめゼロ推進プロジェクト

いじめ防止、人権教育にもっとも有効だと考えるのは、演劇を通してのワークショップである。それは、人権にかかわる場面を何度も何度も繰り返し体験的にシミュレーションして考えるからである。そこで、東京からプロの演出家、俳優を招聘し、劇作りワークショップを行った。あえてバッドエンドの劇作りを行い、みんなで各々の正義を語り合った。



### 3 成果

#### (1) 児童生徒の自発的・主体的な活動の様子

##### ① モンスターバッシュ挨拶運動



8月24日、25日の二日間、中四国最大のフェス「モンスターバッシュ」の会場から2kmという地の利を生かし、本年度初めてPTA有志で駐車場経営を行った。その際、子どもボランティアを募り挨拶運動を実施した。暑かったり、雨が降ったり、恥ずかしかったりと、子どもにはハードルが高いトライだったが、やっていくうちに、だんだんと挨拶に一声添えるプラス1活動ができるようになってきた。隣のコンビニの店長さんから「モンバスが始まって25年目にして初めて駐車場での接触事故がなかった。お客さんも一日400人増えた。隣で駐車場経営をしてくれたおかげだ」と感謝された。子どものアントレプレナーシップ教育、地域の渋滞緩和、参加者の利便性向上、この指止まれ方式の新しいPTA活動の在り方の模索など、三方よしのトライとなった。

##### ② ハッピーマンデープロジェクト

#### 児童会発案 ハッピーマンデーP



月曜日がしんどい友達のために、昼休みを長くして交流を深めたい、という児童会の提案で、月に1度、掃除の時間をなくし、昼休みを長くするハッピーマンデープロジェクトを始めた。

ただ昼休みを長くするだけではなく、その45分間を有意義なものとするために、不登校傾向の友達へのアプローチをどうするのか、昼休みとは言えずとタブレットを一人でしている友達へのアプローチ

をどうするのか、予告すべきかサプライズがいいのかなどなど、ひとりぼっちを作らないために、児童会の一人一人が何ができるかを真剣に考え、職員会で提案し、現実のものとして実現させていった。さらにフィードバックを繰り返し、企画をブラッシュアップしている。

#### (2) 総括

5年生を対象とした県学習状況調査児童質問紙の中で、学ぶ意欲に関連する質問9項目すべてについて向上が見られた。「勉強は好き」、「授業は楽しい」、「学校に行くのは楽しい」と、いずれも県平均を上回り、学習に対して前向きな感情が育まれていると考えられる。特に、「将来の夢」、「人の気持ちがわかりたい」については、100%の子どもが夢をもち、人の気持ちがわかる人間になりたいと回答しており、それが学ぶ動機付けにつながっていると考えられる。

Q-U結果(高学年)		
	前学年	現在
学校生活 不満足群	8	5
要支援群	3	1
侵害行為 認知群	5	4
非承認群	4	1

Hyper-Q-U テスト（11月実施）の結果、高学年では、学級生活不満足群が3名減、要支援群が2名減、侵害行為認知群が1名減、非承認群が3名減となった。また、学級生活満足群は、5年生で48%（全国平均43%）、6年生で75%（全国平均43%）と高い水準で向上が見られた。

さらに、全校生を対象とした学期末アンケートの結果によると、1学期と比べ肯定意見の割合が向上した項目は、20項目中9項目あった。「早寝早起き」+1p、「外遊び・運動」+3p、「ネットの約束」+5p、「手伝い」+1p、「思いやり」+11p、「夢に向かって努力」+3p、「体験の言語化」+3p、「友達や先生は助けてくれる」+1p、「お家の方は助けてくれる」+1p。特に、「思いやり」の項目（誰に対しても思いやりのある行動をとっている）に顕著な伸びがあり、人権学習・人権集会の成果を感じられる結果となった。課題は、家庭学習の時間と読書の習慣だった。

一方、保護者を対象とした学期末アンケートでは、20項目中11項目において肯定意見が増えており、特に「不安なことは質問や相談で解決する」+10p、「自分のことは自分でする」+6p、「きちんと朝ご飯」+8pと、子どもの自立に関する項目で大きな伸びが確認できた。また、学校経営に関する項目については全て1学期より向上しており、肯定意見の平均が97.6pと高い評価をいただいた（「学校の教育方針や学級の子どもの様子が適切に伝えられている」97.7%、「教員から保護者へ電話・連絡帳等での連絡が適切に行われている」96.5%、「学校は、子どもや子育ての相談に誠意を持って応じている」98.9%）。また、「毎日、楽しく学校に行っている」についても95.3%と4p向上した。保護者をはじめ地域の方のあたたかい支援をいただき、まっすぐ育ててくれていることに心から感謝したい。

明日も学校へ行きたくなるプロジェクト

劇づくりワークショップ・人権劇にトライ&エラー

劇づくりワークショップについて

私は、はじめて理恵の子どもたちと/からげきをつくるのはむずかしかったです。でも、5,6年生と/からげきをつくるのはだめしかったしおもしろかった。また、しっばいしたこともあったけれど、5,6年生と一緒にめいめいとくまできました。

あおやぎ集会(人権劇について)

あおやぎ集会(人権劇)では、はじめについて考えたげきを/からげました。ワークショップといっしょで作るのむずかしかったです。次に、次ははじめについてだったので、むずかしかったです。私ははじめについてしるべいのむずかしかったです。

活動を通して

全体とおしてはじめをするもどかしくもつらいけど、楽しかったです。私が一番ワークショップをとおしてよかったことは、今までよりも、といじめについてみんながえれたのでよかったです。私が一番むずかしかったのは、/からげきをつくること。でも、はじめだったので、しっばいばかりしてました。でも、今、一番いいようにできてよかったです。

